



かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

地域版

7月号

令和8年6月30日



㊦感じる心たいせつに ㊦みんなの心、みとめあい ㊦せいいっぱい ㊦やってみよう やりとげよう

子ども同士の関わりで

校長 小林 京子

本校では、「子ども同士の関わりで育つ」という考え方を大切にしています。子ども同士の言葉や行動は大人のそれより影響が大きいものです。ですから、特に高学年の言葉や行動をグッドモデルとして育て、子ども同士が関わり合いながら成長できるようにする工夫をしています。例えば、きらぼか班の活動、児童朝会、学習の中での異学年交流（例：4・5年愛川体験学習、1・6年生のバディ活動など）です。いずれも上の学年の子どもたちを全職員で支えます。

その中の一つとして、例年行われている、かみせや子ども会議（今年度はパネルディスカッション）が今年も開催されました。今回は、4～6年生の学年代表がパネラーとして、よくありそうな友達同士の（ちょっといじわるな）会話の場面について、自分の考えを伝え合いました。「そういうことを言っただけじゃないって思っているけれど、その場面では、友達に注意できないかもしれないです。自分も言われたら嫌なんだけれど…」素直な本音、体験から自分の心の葛藤を述べるので、フロアの皆も共感、真剣なまなざしです。最後に運営委員会委員長がこんな話をしました。

「私からは、『花』の話をします。花と言っても花壇の花ではありません。一人ひとりがもっている心の花です。その花は、自分があるのままでいられるとき咲きます。しかし、自分の身の回りに目を向けた時にあなたは誰かの花をつぶしていないでしょうか。わたしも心当たりがないのかと聞かれたら、残念ながら、そういうこともあるかもしれません。『みんなが努力し、一人ひとりが力を発揮できる学校にしよう』これを達成するには、一人ひとりの心がけが大切だと思います。だから私はお互いの花をもっと大きく、そして、自由に咲かせることができるような『水』を与え合えるようになりたいです。みなさん、これから明るく楽しい上瀬谷小を創っていきましょう。」

まとめに校長の話が求められましたが、この話と、子どもたちのディスカッション以上に大人の言葉は必要ありません。会全体にそう返しました。仲間が話す言葉に耳を傾ける子どもたち、そのあと、子どもたちは体育館から一言も話すことなく退場していきました。廊下を歩きながら、その話の余韻に浸る、体育館中にもそんな空気が残っていました。こんな豊かな言葉が出てくる、そして余韻という感覚を仲間同士で味わえる学校に成長してきたのだな、とうれしくなりました。これこそが子どもたち同士で育つ雰囲気です。会の最初から最後まで大人の出演は、ほとんどありませんでした。

4月の入学式の日から、1年生のサポートをしてきた6年生に1年生の保護者からたくさんのメッセージが届きました。「安心100%不安0% バディの6年生はもちろんのこと、全員が1年生の子たちを気にかけてくれているように感じています。それは、朝の登校班でもそうですし、学校での様子を聞くと6年生と給食を食べたこと、中休みに遊んだことを毎日のように報告してくれました。6年生ありがとう。」子ども同士の関わりのグッドモデルの例をお話ししてきましたが、よい関わりを大人が価値づけ、それを子どもたちに伝えることで子どもたちは、たくさんの素敵な行動を身に付けていきます。特に学校はそんな場でありたいと願っています。